

連続講座

映画以内、映画以後、映画辺境 2

吉田広明 × 平倉圭 × 土居伸彰 × 七里圭

2014年11月15日土曜 / 11月27日木曜 / 12月14日日曜

もう映画ではられない?



14143101RYO

映画以内、映画以後、映画辺境 2

「映画が“映画のようなもの”にすり替わっているような気がする」という私のあいまいな違和感を出発点に始めた1stシーズン（第一回～第三回）。その中で、吉田広明氏から「（デジタル化によって）人間の表象システム自体に変質が生じ始めているのかもしれない」という刺激的な意見をもらいました。確かに、変わってきているのは映画ばかりではなく私たちの方もかもしれない。だとしたら…？
イメージがイメージを自己増殖するようなデジタル＝ソーシャル環境で、現実に見える（聞こえる）ものを使い、あるいは組み合わせることで表現することの緊張は、限りなく薄れつつあるようにも思えます。2ndシーズンでは吉田氏もホストに加わり、多彩なゲストとともに、映画と私たちのリアルがどのように変容していくのか考えていきます。うう、大変…。(七里)

第四回 2014年11月15日土曜 19時開演

「映画は〈まがいもの〉である、ゆえに想像力を生むのだ／か？」
～ 映画を思考することと作ることのあいだで～

吉田広明（映画批評）× 七里圭（映画監督） ゲスト：平倉圭（芸術理論）+ 土居伸彰（アニメーション研究・評論）

連続講座1stシーズンの終局に上演されたライブ「映画としての音楽」の映画版を初公開。その作品の検証を通して、デジタル化やソーシャル化、はたまた映画とサウンドトラックの関係の変遷など切り口をスライドさせながら進めてきた前三回の講座内容を振り返ります。さらに、ゲストを交えて2ndシーズンの討議も展望します。※上映に引き続いて講座を行います。

上映作品 「映画としての音楽」 (2014年 / 56分 / HD)

監督：七里圭 テキスト：日夏耿之介訳「院曲殿羅米」（オスカー・ワイルド作「ザロメ」）
音楽：池田拓実、さとうじゅんて、徳久ウイリアム、山崎阿弥、sei、山形有弘、古賀彰吾、今藤哲平、長宗我部陽子、船屋法水 他

第五回 2014年11月27日木曜 20時開演

「サイボーグになった私たちのまなざしはイメージをどう捉えるか？」
～ 映画分析においてデジタル技術がもつ意味～

平倉圭 × 吉田広明 × 七里圭

ヒトの感覚と事物の関係を組み換え、記述されるべき細部を新たに発明するデジタル技術。ソーシャルメディアとは、サイボーグ化された私たちの身体の現実なのかもしれません。圧倒的な高解像度のゴダール分析で話題を呼んだ気鋭の研究者を迎え、『ソシアリズム』の解析からゴダールの外へ、私たちの現実を深く揺るがすような映画表現を求め、「具体例」を通して考えます。 ※ゴダール他、「具体例」としての作品分析を実演します。

第六回 2014年 12月14日日曜 18時30分開演

「現実アニメーションであり、ヒトはアニメーションになりつつある？」
～ 世界認識のモデルとなるアニメーション表現の今～

土居伸彰 × 吉田広明 × 七里圭

私たちがリアルと考えている世界は実はひとつのフィクションに過ぎず、夢と現実、過去や未来といった秩序は、仮の常識に過ぎないのかもしれませんが。にわかには掴みたい大きな流れが現実を席巻しつつあるなか、アニメーションは、実写では捉えきれず、描線によっても届かない何かを呼び込む霊媒（メディウム）として機能することで、その流れにアプローチしはじめています。アニメーションの最前線から、映画の現在を見直す試みです。
※参考作品のダイジェスト上映があります。

吉田広明（映画批評）

1964年生まれ。著書に『B級ノワール論』、『亡命者のハリウッド』（共に作品社）。雑誌「キネマ旬報」、WEBサイト「映画の園」、劇場パンフレット等のメディアに時折寄稿。さらなる書下ろし書籍を執筆中だがいつ終わるか分からない。

平倉圭（芸術理論）

1977年生まれ。横浜国立大学教育人間科学部准教授。近現代芸術のミクロ構造分析を通して、技術的環境に埋め込まれた集合的知覚・行為システムの働きを研究している。著書に『ゴダールの方法』（インスクリプト）、共著に『ディスプレイ：配置としての世界』（現代企画室）、『美術史の7つの顔』（未來社）、論文に『多量期構造——セザンヌのクラスター・ストローク』（『ユリイカ』）など。

土居伸彰（アニメーション研究・評論）

1981年生まれ。国内外の映画祭等でアニメーション作品をキュレーション。2014年には、GEORAMA、新千歳空港国際アニメーション映画祭の立ち上げに関わる。編著に『ドン・ハーツフェルト』（CALF）、訳書に『ライアン・ラッキー やせっぽちのバラード』（太郎次郎社エディタス）など。boidマガジンにて「Animation Unrelated」連載中。

七里圭（映画監督）

1967年生まれ。「のんきな姉さん」（2004）『ホットネットトエプロン・スケッチ』（2006）『眠り姫』（2007）『マリッジリング』（2007）、以上劇場公開長編映画。建築家・鈴木了二との短編「DUBHOUSE」（2012）が、2013年の25FPS国際映画祭でグランプリ。アークスモニウムなどの上映パフォーマンスにも取り組んでいる。

【料金】

第四回 ※映画上映付き ¥2,000（税込）
第五回 / 第六回 各回 ¥1,200（税込）

【開場時刻】

各回とも、開演30分前に開場します。

【詳細】

<http://keishichiri.com/jp/>

UPLINK

東京都渋谷区宇田川町37-18 トツネビル1-2F
tel.03-6825-5503 <http://www.uplink.co.jp>